

南区自治組織協議会

南区・地域福祉ネットワークづくりシンポジウム

～高齢者等の災害時要支援者を地域で見守る！～

南区自治組織協議会と南区役所は、平成23年10月13日に南区高宮のアミカスで、緊急時に支援が必要な高齢者を地域でどう見守っていくかについて考える「南区・地域福祉ネットワークづくりシンポジウム」を開催しました。各校区の役員、民生委員・児童委員など約240人が参加しました。

第1部の基調講演では、岐阜市京町地区自治連合会長の藤澤 眞一氏が、平成18年から活動を始め、今では全国のモデルケースとなっている「防犯・防災見守り活動」を紹介しました。「京町地区は、高齢化率が37.3%と岐阜市内で最も高い地区ですが、一人暮らしの高齢者を粘り強く地域全体で支える機運の醸成を図った結果、『ご近所見守りチーム』の取り組みが地域ぐるみのもとなり、近隣住民が高齢者に対し、声掛けなどを行うようになった」と話してくださいました。また、藤澤氏は「見守る人に責任を負わず、気軽に地域の人に参加できるようにすること」「地道な活動を続けていくこと」が大切だと熱く語ってくださいました。

第2部のパネルディスカッションでは、大池校区自治協議会（おおいけ会）会長や東花畑校区社会福祉協議会会長がそれぞれの取り組みを紹介し、災害時要支援者への複数の訪問者を事前に決めておくシステムなど、緊急時の対応や日常の地域での協力体制のあり方について、藤澤氏、コーディネーターの十時 裕氏を交えて意見交換をしました。

「地域の各組織が横の連携を取り、とにかく、できることから始めることが大切」という意見に、会場の参加者からは賛同の声が多く聞かれ、活動の積み重ねこそが地域の力となることを確かめました。



第1部 基調講演の様子



第2部 パネルディスカッションの様子



約240人が参加



住民を結ぶ「ふれあいフェスティバル」

～生まれ変わった校区運動会～

城南校区では一時、校区の運動会がなくなっていた時期がありました。いちばんの原因は、参加者の減少。けれど運動会がなくなってしまつてわかることもありました。住民同士の結びつきや、自分の町に対する愛着が、希薄になっているのではないかと、という危機感を感じるようになったのです。そこで、「選手集めや準備は大変だけれど、もう一度、新しい形でやってみよう！」と自治協議会で決議。名称を「ふれあいフェスティバル」と変え、より多くの住民が楽しめる行事として、

平成20年度から復活させています。

例えば、子どものパン食い競争と障害物競争を、得点に関係のない自由参加競



真剣な防災訓練!!

技に。また玉入れを全員参加にしたり、防災訓練も行うなど、来た人が何らかの形で参加できるようプログラムを工夫。参加者募集案内のプリント



足並みそろえて一致団結!

を小学校でも配付するなど、校区をあげて参加を呼びかける努力を重ねた結果、1,000人以上の住民が参加してくれるようになりました。

「久しぶりに友達に会えた」「一緒に自分の町内を応援することで、絆が深まった」など、うれしい声もたくさん届いています。今後も校区の合言葉である「出会い・ふれあい・助けあい」をめざした活動に取り組んでいくつもりです。

古き良き伝統「どんどやき」でまちおこし

毎年1月、成人の日に、高取市民グラウンドで開催される「どんどやき」

きっかけは、平成9年1月、近隣校区の子ども会を対象にした「新年子ども交歓会」でした。

子どもたちに「何かを作り上げるには色々な苦労がある事」「伝統を伝え続ける大切さ、尊さ」「地域の人々のぬくもり」を伝えたい、と願ってこの行事を行っています。

例年700人を超す参加者があり、今では、自治協議会の主な年中行事の一つとして、受け継がれています。



燃え盛る炎に一年間の無病息災を祈ります。

一年間の健康と家内安全、そして学力向上を祈って、しめなわや習字の紙を焼きます。

前日から竹を切り出し、朝早くに組み上げる・・・こ

の行事を実施するには、沢山の人の努力なくては出来ません。

参加者に振舞われる「豚汁」も又絶品です。自治連合会・体育振興会・男女共同・老人クラブ・小中PTA・消防団・・・

全ての人がそれぞれのパートで役割を果たすことで、この大事業が成り立っています。

いざ、点火となって空に向かって立ち上る炎は、とても壮大です。

古き良き伝統を伝える事業として、また、地域の「まちおこし」として、この「どんどやき」を引き継いでいきたいと思っています。



800人分の豚汁を作ります。



朝早くからの竹の組み上げ作業です。

福岡市合併五〇周年記念式典を挙行

昭和36年4月、当時の糸島郡元岡村が福岡市に合併し、元岡校区が誕生しました。

平成23年は、合併50周年にあたり、去る10月30日に来賓や地域の役員、関係者及び一般参加者約200人が参集し、盛大に記念式典及び祝賀会が挙行されました。

当時3,900人余だった人口も今では11,000人を超えるまでに増加しました。平成17年にオープンした九州大学伊都キャンパスや区画整理事業の結果、今後とも市街化が進んでいくものと思われます。

一方で、元岡校区は福岡市の重要な生鮮食料供給基地としての役割を担っており、また、同区内には福岡市無形民俗文化財に指定の元岡祇園ばやしや元岡獅子舞があり、脈々と伝統を受け継いでいます。

濱地自治協議会会長は、「将来に向けて、元岡の広大な美田と緑多き自然、そして素朴な人情を壊すことなく発展させ、町部と農村部、さらに九州大学が解け合って、調和のとれたまちづくりを推進していくべき」と語りました。



「福岡市住民自治フォーラム」を開催しました

福岡市と福岡市自治協議会等7区会長会は、平成23年11月28日、ももちパレスで「福岡市住民自治フォーラム」を開催しました。

同フォーラムは、コミュニティの活性化や住民自治のあり方を考える機会とするために、「『共働』と『参加』でつくるコミュニティ」をテーマに開催し、自治協議会関係者など約300人が参加しました。



第1部では、地域での自治活動に貢献された方々に福岡市長から感謝状が贈呈されました。

第2部では、法政大学法学部の名和田 是彦教授が

「『共働』と『参加』でコミュニティの輪を広げる」と題し、基調講演を行いました。

第3部は、名和田教授と3名の地域活動実践者を交えたパネルディスカッションが行われ、地域活動への住民参加のきっかけづくりについて、実際の活動事例もふまえながら活発な意見が交換されました。

参加者からは「他校区の活動を聞くことができ、参考になった」「子ども達も含め、若い世代の参加が不可欠と感じた」などの声も聞かれました。アンケートでは「役員等の人材が不足している」「町内会加入者が減少している」など深刻なご意見もあり、地域の課題解決のヒントとなるような先進的な取り組みなどを、今後も紹介していきたいと考えています。



お詫びと訂正

福岡市コミュニティ通信第9号（10月1日発行）に誤りがありました。誤りのあった箇所、正しい内容は下記のとおりです。お詫びして訂正いたします。

「長谷ダム水がめまつり」の内容（1面）

誤：「長谷ダムは、昭和53・54年の渇水を機に、水不足を解消するため福岡県が東区の東部、三日月山のふもとに建設」

正：「長谷ダムは、昭和53・54年の渇水を機に、水不足を解消するため福岡市が東区の東部、三日月山のふもとに建設」

お問い合わせ・地域の情報などはこちらまで

●東区役所地域支援課
TEL 645-1041 FAX 645-1042
●博多区役所地域支援課
TEL 419-1048 FAX 452-6735

●中央区役所地域振興・支援課
TEL 718-1062 FAX 714-2141
●南区役所地域支援課
TEL 559-5072 FAX 568-3824



●城南区役所地域支援課
TEL 833-4061 FAX 822-2142
●早良区役所地域支援課
TEL 833-4416 FAX 851-2680
●西区役所地域支援課
TEL 895-7036 FAX 882-2137

東区城浜校区

城浜校区自治協議会

橋口 洋志 会長

(東区自治組織会長会会計監事)



- ①都心まで15分という立地に恵まれた、市営・県営の住宅団地で形成された校区です。世帯数2,276戸、人口3,882人、高齢化率36.2%と高齢化が顕著です。
城浜公園、みなと100年公園が立地し校区周辺に大規模公園が多い事も特徴です。
- ②自治協議会発足以来毎月の定例会では活発な意見が出され、各種団体協力のもと行われる、夏祭り、敬老祝賀会、お年寄り会食会や年間通してのグラウンドゴルフ大会などで校区住民の親睦を図り、人材育成・発掘に努めています。
- ③市営・県営住宅での改善工事が順次進められ、住環境は徐々に整備されていますが、高齢化、少子化に加え、外国人居住者も多く、異文化交流も含めて積極的な校区住民の「つながり」形成に取り組めます。

東区若宮校区

若宮校区自治協議会

百田 篤 会長

(東区自治組織会長会副会長)



- ①当校区は、昭和46年に多々良校区から分離しました。校区内には商店や病院などが多く立地しており、緩やかな丘陵地に広がる良好な環境をもつ住宅地です。人口は年々減少傾向にありましたが、集合住宅の建て替えなどにより、今年度は増加しました。また、高齢化率も年々上昇しています。
- ②毎年、夏祭り、体育祭、ふれあい文化祭、新年交歓会、どんど焼き・もちつき大会を計画し、実施しています。総会において事業実施のため、自治協議会の構成団体の中からフェスティバル実行委員会を立ち上げ、それぞれの事業ごとに80～100名の運営委員が子ども達の参加を第一に、校区住民の交流の場となるよう活動しています。
- ③安心で安全な街づくりを進めるため、3年前に結成した自主防災組織の更なる充実を図っていきます。また加入率の低下が著しい子ども会について、校区内の全ての子ども達が楽しく参加できるような子ども会づくりを目指していきます。

博多区博多校区

博多校区奈良屋自治協議会

後藤 久義 会長

(博多区自治協議会長連絡協議会副会長)



- ①770年に渡る歴史の中で受け継がれてきた山笠の伝統が今に生き、古くから問屋街等の商業も繁栄してきました。近年は都市部ならではの交通の利便性もあって、ワンルームマンション等の建設が進み、若い世代の単身世帯も増加しています。
- ②地域住民相互の連携の輪が広がるようにと、自治協議会のさまざまな取り組みにおいては、世代を超えた人々への協力を呼びかけています。幸い、博多祇園山笠や博多どんたくなど、数多くの祭りを通した人と人とのつながりの場があるので、何かと忙しい反面、住民がまとまりやすい状況です。
都市部の宿命として、人の流れが大きいので、現在は特に、安全・安心のまちづくりを進めるべく、防災や防犯に力を入れています。
- ③現在話題の屋台を地域内に数多く抱え、また、福岡市の海の玄関口である博多ふ頭も抱えており、その活性化は大きな課題ですが、これらの課題は地域だけの問題ではありません。
当自治協議会では、地域のことだけを考えるのではなく、“博多はひとつ!”を合い言葉に、博多区全体のことも視野に入れて、これら諸問題の検討会議等にこれからも引き続き参画してまいります。

中央区当仁校区

当仁校区自治協議会

木立 晴久 会長



- ①江戸時代、福岡藩の城下町として栄えたところで、由緒ある多くの寺や西学問所跡、八兵衛地蔵など、当時をしのぶ旧跡のほか、400年の歴史をもつと言われる唐人町商店街もあります。また、市民の憩いの場である大濠公園、西公園を有するなど、環境にめぐまれた住宅地です。
- ②校区の大きな行事として、「夏まつり」、「運動会」、「ふれあい文化祭in大当仁」、「三世代交流もちつき大会」を4つの柱にしています。イベントを実施する場合は、参加する人だけでなく、運営する人も楽しめるイベントとなるように努力しています。また、町内会長、各種団体長、公民館、小・中学校、高校、商店街、ふくふくプラザなど、約65名が参加する連絡会を毎月開催し、校区内の情報の共有を図っています。
- ③当面の課題としては、防犯・防災組織の見直しに取り組んでいきたいと思っています。校区の運営に当たっては、引き続き自治協議会、小学校、公民館の三者で連携を図っていきたく考えています。